

# 伊勢湾台風 体験談

ここに掲載しているのは、2019年9月～12月の期間に名古屋市博物館、南図書館、名古屋市港防災センター内にて募集した体験談です。「伊勢湾台風力ルタ」は、これらの体験談を参考に札を作成しています。

また、2020年に港防災センターにて開催した「災害後のはじまりのごはんくいつ・どこで・なに食べた？」展の関連企画として「伊勢湾台風後にはじめて食べたもの」についても募集しました。なお、食べ物についてののみのご回答は後半部分にまとめて記載をしています。

ご協力くださった皆様に、この場を借りて感謝を申し上げます。

(注)①掲載するにあたり送り仮名や接続詞など軽微な修正している箇所があります。②体験談記入の日付順に掲載しています。③( )内の地名・年齢は当時のものです。全て無記入の場合のみ「年齢等無記入」と記載しています。④判読不能な文字については「\*」としています。

# 名古屋市港防災センター 伊勢湾台風60年企画 食の記録・伊勢湾台風かるたの句募集

名古屋市港防災センターでは、伊勢湾台風60年の節目に伴い、台風時の食の体験談、及び「伊勢湾台風かるた」作成のための句を募集しております。いずれかの記入のみでも結構です。ご協力お願い申し上げます。

伊勢湾台風被災後に召し上がられた食べ物を教えてください。  
(食べ物に限らず、体験談でも結構です)

港防災センターでは本年度「伊勢湾台風かるた」を作成しております。  
川柳(5・7・5)の句で体験談をお聞かせください。

さしつかえなければ当時お住まいの市区町村 当時の年齢 性別を教えてください。  
当時のお住まい( ) 当時の年齢( 歳 )  
性別( 男 ・ 女 ・ 答えたくない )

ご協力ありがとうございました。

※いただきました体験談およびかるたの句は港防災センターでの展示、イベントSNSなどに使用させていただきます。ご了解くださいませ。

名古屋市港防災センター

※この様式を使用して、体験談募集を行いました。

1959年9月26日、19時頃。入社2年目で、名港の会社にいました。高潮か何か水が入ってきたので、皆すぐ帰宅しました。翌27日、笠寺駅から熱田駅まで線路の上を歩きました。左右の家は水につかっていたいました。熱田駅から築地口までは水（30cm位）の中を歩きました。名古屋港の方面はラワン材がごろごろしていました。

昭和34年伊勢湾台風（15号）から60年になります。僕達の世代の人間は忘れないですがこういう催しもので学生、若い人に知ってもらわうべきです。

（港区畑中、19歳、男性）

水が出て父につかまり妹と弟と一緒に南区役所のにげましたが、その時豚、トイレの汚物と一緒に水の中を歩いた事が今になっても忘れられません！！

(港区港栄、11歳、女性)

山崎川の堤防が壊れたと言われ、父・母・妹（6ヶ月）で逃げました。濁流と共に大きな木材が木場方面の貯木場から流れてきたのをかすかな記録に覚えています。幸い近くの会社の倉庫に逃がれ助かりました。母の話で、台風が去った空が星いっぱいだったと覚えています。道徳は被害が大きくなくなかなか水が引かなかったと聞いています。子供に自衛隊から乾パンが配られたそうです。

（南区泉楽通、3歳、男性）

伊勢湾台風の時は小学生でした。あれから60年！僕の年令70才！家の前はちよ<sup>ど</sup>ど水のたまりやすい場所<sup>で</sup>床下すれすれまで水がきました。くつやぞうりが玄関の土間にぶかぶか浮いているのを覚えています。小学生の時クラスに桑名の長島の方から避難してきた生徒を受け入れていました。

(中村区、10歳、男性)

当日の日中はすごく良い天気で台風が来るなんて予想もしていませんでした。夜の8時半過ぎに玄関口から急に水が入ってきて逃げる間もなく、天上からも逃げられず、水圧で窓も開きませんでした。窓がやつと開いたと思った瞬間、滝のように水が家の中に流れこんできて一瞬のうちに部屋は水でいっぱいになり、窓の方向に向って外へ出ました。屋根の上では流れてくる木材と風雨にさらされ、一睡もしないで一夜を過ごしました。

(南区柴田西町、8歳、男性)

家族：祖父、父、母、義姉、私8才（小学2年）

【当時の状況】9月26日夕方〜夜（未明？）にかけ台風に被災する夕食後だったと思います。台風接近による暴風雨で停電になり、外では風が強く（ビュ〜ウ・ゴーと風の音）不気味でした。そんな中、家族全員が一部屋に集まり眠ることにしました。私が眠りに着いた時、とたんに寝ていた義姉が寝返った時手が水に入る音に気づき、浸水してきたのが分かり、全員を起こして近くの学校（日比野中学校）へ避難を始めました。私はまだ小さかったので祖父に肩車してもらい（たぶん私の胸くらいまで水があったと思います）、近くの公園（西町公園）を通り抜ける時、側溝に足をとられ転びそうになった事を記憶しています。

（次ページへ続く）



(続き)

なぜ記憶に残っているか？本当に恐かったからです。全員無事に避難できた事は絶対に忘れる事は有りません。後日帰宅し家具や畳を洗ったり干したり大変でした。(学校は休校で遊ぶ所もなく、浸水をしていたので古い畳の上に乗って筏遊びをした記憶も残っています。)日が過ぎるにつれ被害状況が徐々に分かり始めました。港・南区など南部がかなりの被害と聞きました。隣接に貯木場などがあり、それによる流木被害が多くなったようです。また岐阜で銭湯を営んでいる叔母の所も屋根が飛ばされる被害が出たので、祖父が弁当(おにぎり)を持って見舞いにいったと聞かされました。本当にすごい台風だったんだと思います。又近所の人達が協力し合い少しでも被害が少なくなればと思います。乱筆乱文失礼しました。

(熱田区大宝町、8歳)

バス停、一\*町の場所に住んでいた。小学6年生だった。バス通りの道路まで水につきり、家は軒まで水の下、3週間くらいは潮の満ち引きで海水が来たり引いたり、床を少し高くして水の上で寝起きしていた。何日か経って大きなトラツクの荷台にオニギリが満載、でも匂ってた。それでも食べるしかない。その後は缶詰ばかり、サバのみぞ缶ばかり。何日か経ってアメリカの人が増えた。その時チョコレートをもらった。

(港区稲永、12歳、女性)

風雨が強くなり、女性4名で戸（南側）を押さえた。水が上がってきたので、義弟にうながされ1歳の長男をかめのこで背負った。危なくなってきたので、塀を足場に屋根へ。鴨居まで水が上がり、怖がって屋根に上がれなかった母も父に説得され水にもぐってくぐり、なんとか脱出。新築3年目だったので近所の人も逃げてきて、3世帯合計20名ほどで屋根の北側で風をよけた。寒さの為、長男の手を握って脈があるか確かめていた。今になって、よく屋根に上がったと思う。夜だったので何も見えなかったから上がった。日中だったら怖くて上がれなかった。（次ページへ続く）

(続き)

被災翌日、はしけ(いかだ?) (※補足「?」含め原文ママ。「舳(はしけ)」は、河川・港湾などで大型船と波止場との間を往復して貨物や乗客を運ぶ小舟のこと)に乗って、消防団員の方が持ってきてくれた食パン。一人半斤ぐらいいただいたので、量はあった。ただ、食パンだけだったので、食べにくかった。お金はまとめて押し入れに置いてあったおかげで、浮かんでいたお金の入れ物を取れた。そのお金で食べ物を買いに義弟が水に浸かりながら買い出しに行った。りんごが150円もしていたが売り切れで買えなかった。給料が1万5千円くらいの時代です。

※ご本人の身内の方が代筆

(港区港栄、25歳、女)

台風は土曜日だった。近所の二階建ての家に助けられ、次の日、親戚の人達が犬山から炊き出ししてくれた食べ物を持って来てくれました。親戚の叔父もいかに組んで食べ物を探しに行ってくれました。

(南区道徳新町、13歳、女性)

新築したばかりの家のかわらが飛んだ。子供だったのであまり記憶がない。学校が休みで嬉しかったし、救援物資をもらい、ジャンパーをもらった記憶がある。うれしかった。

(伊勢市、10歳、女性)

私達親子、両親、兄、私、弟の家族5人でした。兄（12歳）と父は外から屋根へ逃げ、私と母と弟（3歳）は押入れから天井を破り、梁に布団を引っ張り上げてまたがり一夜を明かしました。朝、兄と父が瓦をはがして助け出してくれました。近所の2階の家に助けられ、やかんのふたで水をもらいました。おにぎりがバット1パイ来ましたが、全部腐っていました。今でも忘れられません。

（南区源兵衛町、5歳、女性）

小学校1年生でした。覚えているのは何日か経った頃、名古屋市から防災用ごはんの缶詰め五目御飯の様で味がついていました。珍しいのがうれしくてとてもおいしかったと記憶しています。弟と多い少ないとケンカしながら頂きました。

(中川区篠原町、7歳、女性)



中学生でした。食事は変化なかったけど、朝の通学時、納屋がつぶれてました。学校へ南陽中学の子が疎開して来ました。

(北区辻町、14歳、男性)

中村区に住んでいた。2階雨戸、ガラス戸が風雨でズタズタ。母親がタタミを取り上げて雨戸の代わりに使い、雨を防いでいた。翌日は台風一過の秋晴れ、道路は水被害無しでした。

(中村区城主町、11歳、男性)

きしめん（※はじめて食べたものは）。

東区に住んでいました。幸い大きな被害はありませんでしたが大木が根こそぎ倒れました。台風通過中は、家が倒壊するかと思うほど揺れました。

（東区筒井町、17歳、男性）

食パン、おにぎり（後になって缶詰）。それを七輪などであたたためて食べた。2階家で、水道が使えたので避難せず2階部分で過ごした。水が引くのに1ヶ月ほどかかった。

20日目位にいかだに乗って、栄の喫茶店に入って紅茶と一緒に水の入ったコップが出されて驚いた。食物や水は必ず火をとおして使っていたから。

（港区、12歳、女性）

乾パンよく食べたので見るのもいやです。学校へ1ヶ月行けなかったので中村区の学校へ行きました。

(中川区富田町、8歳、女性)

自宅（1階建て）が浸水し、保健所に逃げたそうです。その後ボートでまた他の所へ避難したそうです。記憶はほぼないが、恐怖だけは覚えています。

（港区、7歳、男性）

屋根に上り、前の家の2階で一晩泊まりました。

(25歳、女性)

ガス、電気が止まり、少し落ちついてから実家に頼り、残りごはんでおにぎりを作ってもらった。

(東大阪市石切町、22歳、女性)



港新橋に船が着いて、食べ物<sup>が</sup>の配給をしているということで父親が行ったが、一家族<sup>に</sup>おにぎり4個<sup>と</sup>いうことだった。我が家は6人家族であった。当時5歳だったので半分程食べたと思うが、父親は子供達に食べさせるために食べなかつたという記憶がある。

(東築地町、5歳、男性)

夜11時に浸水が始まり、履き物が流れ出した。夕食用にお釜に火を点けるだけになっていたお米と水の入ったお釜を2階に持って行った。ご飯は炊けなかったが水は飲んで使った。お風呂も水を入れて火をつける前だったので、1週間お風呂の水を使ったが、木の桶だったため、1週間後横倒しになってしまった。

(海部郡佐屋町、18歳、男性)

当時4才でおばあちゃんと学校に逃げました。

(4歳、女性)

被災直後いかだに乗って売りにきた一升ビンの水が1本50円だったと聞いています。

(南区、6歳、女性)

えだ豆を入れた炊き込みごはん。とてもおいしかったです。父が雨戸を打ち付けて雨の中を必死に守ってくれていたのを目をこすりながら覚えていて、知らない間に眠ってしまい、夜が明けたら台風は去っていった所でした。

(千種区、11歳、女性)

学校へ教科書がつかえなくなり港区の方から転校して来た子と友だちとなり、教科書をゆずりあってみて勉強した思い出があります。

(千種区、11歳、女性)

ヘリコプターで疎開しましたが、どこへ連れて行かれるのかとても不安でした。尾西市の体育館にて三ヶ月余りの集団疎開で、両親等の面会が楽しみでした。

(十四山村(現・弥富市)、10歳、女性)

私は三重県熊野市出身、家の前は海、裏は山でした。当時の事は鮮明に記憶に残っています。親から危ないので山の寺に逃げるよういわれ、無我夢中で階段を上った事を覚えています。本当に恐ろしかった。海岸沿いの家は流され跡形もなかったです。

(三重県、5歳、女性)



9月26日夜8時頃、当時住んでいた瑞穂区荒崎町の山崎川の堤が切れて、みるみる水は床1m位まで上がってきました。平屋でしたので父が屋根を破って家族を屋根に放り投げてみんな助かりました。食べ物は穂波小での炊き出しごはん。

(瑞穂区、13歳、女性)

自宅が市電に近く、水は少しでした。すぐ翌日は中区へ歩いて向かい3か月大須小に親戚の家から通いました。酷い状態は知らず、今さら驚いています。

(南区、9歳、女性)

当時小学校1年生、愛知郡鳴海町に住んでいました。9月26日当日は、千種区の東市民病院に強制入院させられていました。(近所で赤痢が発生し、検査で保菌者と認定されたので父、妹と一緒に入院させられました。)夜中に隣の大部屋病室ですごい音と悲鳴が上がり怖かったので布団をかぶって寝ていました。

翌朝隣の大部屋をのぞいたら天井が落下、窓ガラスが割れてすごい有り様だったことを覚えています。父は同室の人に頼まれて南区の内田橋まで行ったそうです。同室の人に内田橋より先は水に浸かって行けなかったと告げるとその人は「：ああ」と一声出して泣きそうな表情だったと父が後に語っていました。記憶しているのはそのくらい。

(愛知郡鳴海町、6歳、男性)

南区へのボランティア。1週間後に控えた修学旅行を中止にして、手分けしてお手伝い。

(北区、17歳、女性)

当時2歳7か月でした。妹は6か月、誰かが「堤防が壊れて木材が多く流れている」と叫んだそうです。父母と共に会社の倉庫に逃げました。何も食べ物もなく、2日後に乾パン1個を4人で食べたそうです。

(南区道徳、2歳、男性)

港区で災害に遭いました。多くの方々、海外からの救護物資に大変感謝しています。おにぎり、いかの缶詰、毎日かんぱん等60年前の食事。40日間水が引かず、今改めて親の苦勞が身に沁みます。

(港区、10歳、女性)

港区南陽町の母の実家では生暖かい風が吹いてきたら、おにぎりを作って夜を越す習慣があり、伊勢湾台風の翌日もおにぎりを食べることが出来ました。これは母の祖母の家訓でした。

しかし、母が嫁いだ先（中川区）では台風の教訓がなく、翌日はひもじい思いをしたそうです。新川堤防が決壊し、42日間満潮・干潮で入水位が変化する中での床上浸水の生活で、軒下の玉ねぎを七輪で調理して食べていたそうです。

（中川区富田町、24歳、女性）

自分は当時小学生で、停電の為ローソクの火で夕食を食べた記憶があります。ご飯とおかず（いも・煮魚）が全て冷たかった。翌日の朝食はパンと果物で、とにかく暖かい物はなかった。

（熱田区、7歳、男性）



堤が切れたと外から大きな声、すぐに畳が浮き上がり、父が家族4人を押入れに上げた。それでも天井裏のさらに上まで水位が上がリ、父が屋根を破って全員が屋根に出て助かった。私は朝まで屋根の上で寝ていた。数日間天井裏での生活だった。家の前の道路には死体が潮の流れに行ったり来たりしていたのを忘れな  
い。その後は親戚の人が来てくれ、津での疎開生活をしばらく送った。

(南区六条町、10歳、男性)

南区豊田に住み、9時30分頃から急な強風と水。人間は2階の屋根へ逃げて一晩を家族で生きました。明朝は良い天気、ヘリからワラに包まれた大きなおにぎりが降りてきて頂き、美味しかったです。

(南区、19歳、女性)

「水だ」と聞いてすぐ、何分もたたないうちに床上浸水してきた。2階に逃げたが、すぐに2階まで水が来た。「天井を破って屋根に逃げるしかない」と大人が話していた。大家さんの2階の6畳くらいの部屋に12人で集まって朝まで過ごした。翌朝は真つ青な空で、辺りは水だらけ。窓を開けたら人の身体がプカプカ浮いていて、とても怖かった。

さつま芋のしつぽをもらって食べたのが最初の食事。お腹空いてた。3〜4日経って、パンやおにぎりが届いた。10日後くらいから本格的な配給が始まって、沢山もらえた。天井にパンをぶらさげるほどもらえた。

(南区鳴尾町、小6、男性)

小学6年でした。水は、あつという間に屋根まできて、屋根の上で一夜を過ごしました。家にあつた柳の木におんぶをした婦人が、枝にぶら下がっていました。子どもは流されていました。一晩中泣いていたお母さんを思い出します。

(南区白水町、11歳、女性)

台風の近づいてきた夜、母に「今度の台風はいつもと違う。洋服を着たままで、大切なものをまとめて手許に置きなさい」と言われました。南側の部屋の畳を上げ、北側の廊下に立てかけ、服を着たままで座っていました。2〜3日前に父が買ったきたトランジスタラジオで、南区の方で水が出たとか大木が流れて家が壊れたというニュースを聞きながら、寝ないで朝を迎えました。天白川の側で用水に沿った家一列目は壁や屋根が壊れていました。高校の友人の家へ助けに行くと、押し入れの上まで浸かっていました。

(瑞穂区軍水町、17歳、女性)

当時2歳9か月、記憶は薄いですが断片的に覚えているのは真つ暗な中、父？母？におぶられて雨つぶが目痛く、「めめいたい、めめいたい！」と叫んでいた事。逃げる前、一軒長屋に二軒の住宅でしたので、押し入れをドンドン母がたたき「○○さん！○○さん水がきたよ！」と叫んでいた事。

お茶を水筒に詰めて避難を始めたらしく、腰まで浸かる水にその水筒が途中でじやまになり、父が母に「そんなのほかれ！」と（これは母に聞いた話）たぶんそれを聞いて私は自分が捨てられると思い「めめいたい！めめいたい！ほかったらいかんよ！ほからんという！」と叫んでいたのがキョーレツな記憶です。

（次ページへ）

(続き)

あとは柴田の叔父の家の2階からボートに死体をのせ、運んでいたこと(今思えばです)。その頃はたくさんの人が、ねんねしてるんだと思ってました。それも記憶に残っています。家が木場町でしたから、早くに水は南の方に流れていったそうです。逃げ遅れたので、あの頃あった合板工場の塀によじのぼり、父、母、盲目の祖父、10歳上の姉、私はみんなですがみつき、時を過ごしたらしいです。

(港区木場町、2歳、女性)

私は当時8才で、静岡県に住んでいました。それでもこの台風は、60坪の家をぎしぎしとゆらし、家が壊れるかと子ども心に思いました。名古屋でこんな大災害が起こっていたとは知りませんでした。縁あり名古屋で結婚し住んでおりますが、夫はその当時高一で、伊勢湾台風で亡くなられた方のひつぎ作りのお手伝いをしたそうです。

(守山区、8歳、女性)



父が天井板をミシンのイスでやぶり、天井裏で二晩過ごしました。翌日は台風一過の晴天で、屋根へ上がり、まわり一帯海と化した様子に驚きました。父が水に浸かった冷蔵庫の中から卵を持ってきて、小さく穴をあけて飲むように食べたのを覚えています。その後、父の会社の人がかだで助けにきて下さって、旅館へ行ったそうです。真っ青な顔色だったらしいです。

(南区要町、6歳、女性)

中学を卒業して養成工として大江町の会社に就職して半年。家は中村区だったので、大きな被害はありませんでしたが、月曜の出勤は名鉄神宮前から中川運河の堤防づたいで歩いて通勤。体が大きかった私は特別救援隊として翌日から1週間、ゴムボートで2階まで水没している竜宮町一帯の屋根上の人達にカンパンと医薬品を届ける作業の毎日でした。ボートの周りは大きな丸太や壊れた家の残がい、豚や犬の死がい。こわかったのは、何時こわれた家の釘によってボートに穴があくかわからない事でした。

(年齢等無記入)

近所で1件だけ2階建ての家があったので、近所の人たちはその家の2階へ避難した。少ししておにぎりが配られたが、どろ水に浸った米で炊いたので臭かった。少ししか食べられなかった。それで近所のしょうゆ屋さんが、売っていたビン入りの濃縮ジュースを水の中探してくれた。それを水でうすめてくれた。私の大好きだったジュースなので全部飲んだ。数日間経ち水がひいた頃、自衛隊のヘリコプターが衣服を持ってきてくれた。

(蟹江町、4歳、女性)

2階の30cm位まで水につかったので、母が用意していたごはんは全て水の中（1階）でしたので、（被災後初めて食べたのは）翌々日に姉がいかだに乗って持ってきてくれたおにぎりとお茶でした。あの時のおいしさは今でも忘れていません。

（南区鳴浜町、10歳（白水小・6年生））

その時、長野県松本市に住んでいました。台風が通り過ぎた翌日親に頼まれて買い物に行きましたが、ものの100mもいかないうちに道路が水没していました。学校が始まって、仲良しの友達の家が1階天井まで水に浸かっていた話を聞きました。遠い長野県のことですが、ここにも台風の後がありました。近くの女鳥羽川が氾濫したと思います。

(長野県松本市、中2、女性)

改築中のブルーシート（養生幕）をかけた状態の家の中で、一室に家族が集まって台風が去るのをひたすら待ちました。夕食を食べそこない、停電の中ガスの火で食パンを焼いて、一人一枚ずつ食べました。翌日まで他は何も食べられませんでしたが、緊張していて空腹を感じませんでした。

（北区大曾根、14歳、女性）

小さな2室しかない市営住宅に住んでおり（当時小学4年生）、屋根や窓に当たる風雨はすさまじいものであり、即家が壊され、自分の命も亡くなると思いましたが。弱い住宅でしたが幸いにも飛ばされず、多少の雨漏りはありましたが（瓦はだいぶ飛ばされたと思う）何とか家も持ちこたえた様です。しかし、恐くて恐くてたまらない状況でした。

（東区、10歳、女性）

避難先で、ビニール袋に米をつめて、大きな鍋に名前を書いて、ご飯を作った記憶があります。それはあたたかく、すごくおいしかった記憶があります。

家族みんなで雨戸を（風でしなってくるので）かんぬきと共に押さえていました。そして水が入って来ると子供はみんな押入れの上段に避難させられています。翌朝のすぐすがすがしい青空が心に残っています。

（港区川間町、5歳、女性）



↑ご本人の絵



高一の時、伊勢湾台風を経験した。中川区に住んでいて、平屋の家で床上浸水の被害があった。中川運河が高潮で逆流したためだったが、この水害は急ではなかった。少しずつ少しずつ水かさが増すというものであり、緊急感はなかった。情報が発達していなかったため、後になって名古屋南部の大災害を知った。

(中川区、15歳、男性)

自宅の床上まで浸水が始まり、父親が畳を上げる一方、私たち子供は押入の上段に上がりました。

(西区、4歳、男性)

ものすごい風と雨音で飛び起き、隣の会長さん宅へ行くと沢山の人が集まっていた。その後長男の合図で2階建の家へみな避難しました。朝が明けると、外はまるで海と化していました。当時小学校2年生でした。食べ物は疎開先でいただいたカンパンと、まるで石けんの様なチーズでした。今では懐かしく思い出します。

(南区天白町、7歳、男性)

2日たってから親戚が大きなお鉢におにぎりを持ってきてくれました。家にあつた玉ねぎはからくて食べられず、退院祝いの缶詰は缶切りがなくて食べられませんでした。なので、そのおにぎりが最初のごはんです。

(南区鶴見通、29歳、女性)

朝、外を見たら海だった。

56

(港区七番町、8歳、男性)

9月26日土曜日、雨が続く中買い物にも行けず、あり合わせの材料で作ったカレーライスを夕食に食べた。床下の水はあと5cm余りで床に着きそう。母と心配のあまり寝ることもなく、トランジスタラジオのニュースを聞いていた。畳のへりを水が走ったかと思うとあつという間に畳が浮き上がり、水浸しです。平屋の我が家から向かいのアパートの2階へ逃げ、そのアパートの若い住民の方に助けていただいた。近所の友だちは濁流の中、兄妹で逃げたと言っていた。この有様で我が家の玄関の戸やら下駄箱は、日比野の交差点まで流れていきました。

翌朝は快晴、台風一過です。外の通りはひざ上までまだ水があり、家の中には羽釜で炊いたご飯と、カレーを煮た鍋が浮いていました。1m余りの高さまで、家の中の壁は全て落ちてしまいました。朝、いつも配達に来る牛乳屋のおじさんが自転車で配達に来ました。一晩中飲まず食わずでしたので、とても嬉しい牛乳でした。日比野の通りの店屋も被害に遭っていたので何もなく、中学生であった

(次ページへ続く)

(続き) 私は栄町(当時そう言っていた)まで自転車で家族に加えて近所の人の分も買い出しに行きました。生きた心地がした美味しいパンでした。

こんな訳で、カレーと牛乳は、常に伊勢湾台風を思い起こし、全く食べない訳ではありませんが好ましい食べ物ではありません。

あの当時は梅雨時から大雨が降ると、すぐ浸水するような地域でした。伊勢湾台風後、立派な防潮堤ができ安心ができるようになりましたが、あの当時は大雨が降ると「○は」(※○の中に、「は」と記載。①)の建物に早めに避難していませんでしたね。

こんなことも思い出しました。もう一つ、翌朝は水がチヨロチヨロと出、ガスも種火のように出ていました。その後数日は親に言われるまま自宅の片付けに3〜4日余り働きました。学校にも何の連絡もせず、また、学校からもなく、家のことに追われました。忘れようにも忘れられません。

(熱田区、14歳、女性)

一日目：りんご 1人4分の1切れ（隣の市場に男性が潜っていくと、りんごがプカプカ浮いていたそうです。我が家の2階に50人程避難していたので、1人分は4分の1切れでした。）

二日目：ビスケット 1人3〜5枚くらい（ボートが来て、人数を言うと投げ下さったそうです。50人で分けたので、1人分は少なかったです。）

三日目：おにぎり2個（ありがたかったです。）

我が家は2階に水道が来ていたので、その水を飲んでいました。（細い流れですが、水が出たんです。）

（南区観音町、18歳、女性）



## 伊勢湾台風直後に食べたものについて

- 1 おにぎり（南区、3歳、男性）
- 2 かんづめ、おにぎり（大手町、16歳、男性）
- 3 菊住小学校に避難した時食べたおにぎりが思い出に残っています。おいしかったです。（南区要町、9歳、男性）
- 4 お米、おにぎり、かんぱん（港区、9歳、女性）
- 5 カンパン、缶詰、パン、おにぎり等（南区豊田、14歳、女性）
- 6 おにぎり、みそ汁（東区、17歳、男性）
- 7 おにぎり、食パン（南区、17歳、女性）
- 8 カンパン、芋（昭和区、11歳、男性）
- 9 おにぎり（さつまいも入り）。暑さのため、腐って糸を引いていた事を覚えてます。他の食べ物、カンパンくらいです。（南区大江町、7歳、女性）

- 11 さつまいも（南区内田橋、5歳、男性）
- 12 カンパン・古着もらいました。（南区本星崎町）
- 13 カンパン（南区元柴田東町、5歳、男性）
- 14 カンパン、チーズ（熱田区、7歳、男性）
- 15 カンヅメ配給。初めて食べた思い出、コンビーフ。（熱田区一番町、9歳、男性）
- 16 つけもの（瑞穂区萩山町、8歳、男性）
- 17 （台風で水に浸かった）水から上げたお米で炊いたご飯に、おかかとしょうゆをかけて食べた。おいしかった。（南区柴田、12歳、女性）
- 18 缶パンを食べました。乾パンも食べました。台風避難の非常食を食べていました。（守山区、男性）
- 19 海苔のない麦のおにぎり、梅ぼし（守山市（現・守山区）、14歳、男性）
- 20 おにぎりです。二日目かと思えます。（年齢等無記入）